

平成 25 年 12 月 16 日

アフリカのマラウイ国から都市計画・開発管理研修員を受け入れ 神戸すまいまちづくり公社と神戸市の連携による JICA 技術協力プロジェクトへの支援

一般財団法人神戸すまいまちづくり公社及び神戸市は、今年 9 月上旬に国土交通省及び独立行政法人国際協力機構 JICA の協力・参画を得て、神戸市関係部長及び当公社職員等による「マラウイ国都市計画・開発管理プロジェクト国内支援推進協議会」（会長：当公社常務理事：安田丑作神戸大学名誉教授）を設置するとともに、同月中旬から 10 月中旬に渡り、4 名の専門家を現地へ派遣しました。その後、国土交通省より神戸市長へ支援に対する感謝と引き続きの協力要請があり、当公社は 11 月に同プロジェクト日本研修の業務実施を JICA より受託しました。

南のアフリカ地域の国から 12 月 1 日、師走の日本へマラウイ国首都リロングウェ市の計画開発局長カメラ氏以下 6 名の研修員が来日、当公社技術参与井澤元博の講義を皮切りに、市のまちづくり関係 6 局及び 2 外郭団体の協力により、総勢 30 名の講師が各担当分野の技術と知見・経験を伝えていきました。それぞれの講師には、具体的な経験に基づく日本・神戸のまちづくり技術を紹介・講義して頂いたため、非常に分かりやすく、質問もマラウイ国への技術・制度導入を想定した具体的なものが続出し、昼休みへ 20 分、30 分と食い込んだり、師走の早い日没後 6 時になっても議論が続くなど、マラウイ人の真面目さと熱意に満ちた研修でした。

「キャピタル・シティ - リロングウェ」は、2010 年に都市開発マスタープランを策定し、現在その実現に向け、JICA 専門家の指導の下、2030 年目標の詳細土地利用計画図及び開発技術基準とガイドラインの作成に取り組んでおられます。本研修への参加者は、これらの業務に携わっているリロングウェ市計画開発局の 3 名、同建設局 1 名、中央政府の土地・住宅省 2 名でした。研修カリキュラムは、プロジェクトの内容と彼らのニーズに配慮するとともに、現地の開発状況とその分析により構成したため、実践的なものが用意されました。日本の都市計画法とその計画手法、神戸市のマスタープランをはじめとする総合的なインフラ整備計画とそれらの実現方策、特に土地所有者等権利者や住民と一緒にしたまちづくり手法及び開発規制と誘導・コントロール手法などで構成され、逐次それらの事業現場での解説を付加させたため、JICA 技術研修でも過去に類を見ない包括的かつ実践的なものと研修員及び JICA 関係者から評価されました。中央政府の方からは、今後、都市計画・開発管理に係る具体的な行政組織運営方法などについても教えて欲しいなどのご要望を頂きました。

アフリカでも最も遠い南の国から来られた 6 名の皆様、ハードな研修カリキュラムに関わらず、体調崩す方一人もなく、14 日ベイシャトルで離神、関空より空路 30 時間の帰国の途に就かれました。かの地は、既に雨季に入り、四季がある訳ではないが、夏へと上り詰める候、最後に、研修に参加された皆様の今後の「持続可能なリロングウェ市の発展」へのご貢献をお祈りします。



JICA 関西センターの実習「土地利用計画の作成」



復興区画整理事業（六甲道北地区）の現場視察



神戸市役所での講義「開発技術基準：下水・河川」



海上都市土地利用計画・土地利用転換の視察



神戸市役所での講義「開発技術基準：道路」



視察途上に偶然見つけた歩道舗装改修工事の見学



神戸市役所での講義「開発技術基準：公園・緑地」



ベトナム研修チームとの合同視察（東クリーンセンター）